



何度も洗ってつかえるエコラップ

ミツロウラップ 販売中!!



プラスチックを使わないから化学物質を体内に取込まず、食品もフレッシュなまま。しかも繰り返し何度も使えるから、気分はサイコ〜!

- Sサイズ 13×13cm 500円 (ex.生姜ひとかけ、半分切ったリンゴなどに)
- Mサイズ 20×20cm 800円 (ex.お皿に残ったおかずなどに)
- Lサイズ 26×26cm 1000円 (ex.サンドイッチやおにぎりなどに)

オーガニックコットンの生地にミツロウ (たまぱん@信楽のニホンミツバチのミツロウ、オーガニックミツロウ) とオーガニックココナッツオイルと松ヤニをいい塩梅にブレンドして手づくりしています。(監修 Biwabochi ちまり)



購入ご希望の方は「あまいるだより」FB・インスタにメッセージいただくか、あまいる探偵団にお声かけください。



印鑰智哉さんお話会のレポートができました!



2019年10月5日(日)、講師に「世界の食と農」問題の第一人者である印鑰智哉さんを迎えて、「滋養的!オーガニックが食べたい! vol.1 印鑰智哉さんお話会」を開催しました。たくさんの方にご参加いただきありがとうございました。

世界の有機農業のこと、食の安全のこと、遺伝子組換え作物の体に与える影響のこと、農業と病気のこと、興味深いお話を聞く時間となりました。会場のみなさんから活発な質問がたくさん出て、丁寧に答えていただきました。

その模様をまとめたレポートはあまいるだより FB ページのnote で読んでいただけます。ぜひ一読ください。



vol.40 | 川と暮らしとハザードマップ

2019.12.15



あまいるだより

手づくり市民メディア



あまいるだより(天色便り)第40号
 特集/川と暮らしとハザードマップ
 編集/あまいる探偵団
 (北岡七夏・きむらぎん・志野未来・中野和子・藤井朋子・森優子)
 表紙タイトルロゴ/岸田知之
 発行日/2019年12月15日
 発行/特定非営利活動法人あまいる
 ~大切なことを他人まかせにしない。自分たちで力をあわせてつくる~
 TEL 0748-46-4551 FAX 46-4550
 Eメール info@aoibiwako.org
 ブログ http://aoibiwako.shiga-saku.net/

びわ湖の森を元気にするkikitoペーパーを使用しています(びわ湖の森の同伐材活用)

あまいる勉強会 滋養的オーガニックが食べた!! Vol.2 presents

プラスチックごみを減らすために私たちができること

2019年11月25日、あまいる探偵団のつくるミツロウラップを監修してくれている biwabochi こと、ちまりさんのお話会を開催しました。~ミツロウラップからはじまる気付き

のある暮らし~と題して、自身の出産、育児、7年に渡る乳がんのセルフケアから実感された地球に優しい生き方について、愛と笑いをぎゅっと詰め込んで伝えていただきました。

いちばん変えなきゃならないのは「そもそも使い捨てプラスチック製品を作らない」こと。

プラスチックごみの現状

- ・ラップやレジ袋など、1回使っただけで捨てられるものが4割を超えている。
- ・世界で再利用されるプラスチックは全体の2割だけ。
- ・年間約1,270万トンものプラスチックが海へ流されている。
(2010年推計/出典 Jambeck et al.: Plastic waste inputs from land into the ocean, Science 2015)
→マイクロプラスチック→野生動物への影響→人間へ
- ・2050年には海洋プラスチックごみが、海洋生物の総量を超えるとされている。
- ・日本のプラスチックごみ排出量は世界第2位!!

使い捨ての便利な暮らしが地球を脅かす
そこで! プラスチックごみを減らすために私たちができること

1 使い捨てマスク → 糸綿のマスク	2 レジ袋 → エコバック	3 ペットボトル → マイボトル
4 ストローを 使わない!	5 ラップ → ミツロウラップ	6 キッチンスポンジ → コットンたわし ハチマキ たわし 亀の子たわし
7 プラスチックの 保存用器 → ガラス・ステンレス 用器	8 プラスチックの 包装をさける	9 落ちているゴミは とにかく拾おう!!

皆さまこんにちは、織人です。二回目にして最終回ですね。

ニュージーでは主に四ヶ月くらいワイン農場で働いていたのですが、住んでいた小屋もワイン農場の敷地内(職場まで徒歩0分!)、しかも海まで歩いて三分。ワイナリーが目の前にあって、ワイン試飲し放題だし、夜は天の川見えるので、最高の環境でした。

さて、そんな環境の中で初の一人暮らし。始めたワイン用ぶどうの収穫が終わわり、仕事が無くなった頃に事件は起こりました。何をしても良いけど、何もやる気が出ない。そんな精神状態になったのです。

最初は仕事が無くなり、帰国が見えてきたからだと思っていました。でももうそれだけではない。仕事をしている時は気軽に話しかけられたのに、ボスやガードナーのおっちゃんとか話すこともままならず、目の前にはワイナリーや海にすら出ない。人に見られるのすら嫌になり、時間と環境を無駄にしていると思うとどつともない自己嫌悪に襲われて、辛かったです。

何を悩めるのか分からないほど悩みに悩んだ挙句、ニュージーランドに来た理由に問題があったのではと考えるようになり、要はチャホヤされたからなんなんです。

ニュージーランドの自然に、文化に、人に触れたい、知りたい!というのが動機から問題は無かったのですが、「認められたい」「有名になりたい」といった理由で決めたに等しかったので、現地で認められ無いらしい。SNS上で反響を得られない不満がやがて不安になり、疑問を持つきっかけとなったのだと思います。

つまり、自分の意思では無く、他人の、自分が勝手に思っている世間の意見を通して、

織人

暮らしのコラム
 ニュージーランド
 気まま旅 VOL.2
 喜多 織人
 高校を辞めて、日本やヨーロッパなどを旅して過ごしている十九歳。

同様に、上で書いた承認欲求と言われるものは、記憶を掘り返してみると、自転車で旅を始めたことに留まらず、いつの間にか自分の行動基準になっていた事が分かってきました。

しかも考え方は持続可能じゃありません。一時楽しくても、際限ないので悪い意味で一生涯満足出来ないです。人と比べて、周りの目を気にして、いつもどこか不安を抱えている。そんな嫌だしつまらないですよ。

どうすれば本当の意味で幸せになれるのか今はハッキリとは分かりませんが、考えて、試して、失敗して、また考えて。そうやって地道に見つけて行くのだからうな今は思っています。

川と暮らしてハザードマップ

私、ハザードマップは今まで見たことなかったんですけど、去年の九月の大雨の時にうちの近所の田んぼが水に浸かって琵琶湖みたいになったんです。

それで今回の洪水で、うちはどうなってるんだろうと思って初めてハザードマップを探して見てみたら、際どい所に住んでたんやって、初めて知って…

そこで、滋賀県の川のことなら大抵のことを知っている、川の研究者の瀧さんにハザードマップのお話をうかがってみました。



お話を伺ったのは？

瀧 健太郎 さん

TAKI Kentaro
滋賀県立大学 環境科学部
環境政策・計画学科 准教授



川の日（7月7日）生まれ。大学院修了後、民間企業を経て滋賀県庁勤務（18年間）のち現職。河川・流域政策の実務を長年にわたって担当しました。国内外のたくさんの川やそこに関わる人びととの出会いを通じて、地域に愛される川こそが“いい川”だと信じるようになりました。

現在は、流域の水循環と社会システムとの相互関係に着目し、持続可能な流域社会の実現に向けた政策や計画に関する研究を進めています。流域政策・計画に関する学問分野の体系化を目指しています。

たかたま ひよ さん

滋賀生まれ。アースキッチンたまや主宰。アートスタヂオたまいる主宰。好きなこと、創りだすこと。歩くこと。好きな食べものは、すいか。



原 えりか さん

ひょんなことから滋賀に来て10年。ながれながれて現在は日野町にある築130年の古民家に夫と4歳と1歳の子と暮らしている。好きなものはショートケーキ。



ハザードマップ（地先の安全度マップ）

滋賀県のホームページから滋賀県防災情報マップへ行くと、水害リスクマップや土砂災害マップなど様々な防災マップが閲覧できる。各市町のホームページからも、それぞれ市町の詳細なハザードマップが閲覧できる。県のホームページからも市町のハザードマップ一覧にアクセス可。

『滋賀県』・『ハザードマップ』で検索、あるいは『自治体名』・『ハザードマップ』で検索。

普通のハザードマップは川ごとに作成されているが、滋賀県のハザードマップは、大きな河川に加え小さい河川や周辺水路（農業用排水路や下水道）のデータも入った、全国一詳細な『地先の安全度マップ』。

10月（台風19号）の洪水時の浸水は、関東・東北の各地で川が氾濫したがほぼハザードマップ通りだったと、報道されていた。

瀧（以下た） まずはハザードマップでみんなの家を見ましようか。一同 やったー！

川がつくった自然の堤防

えりか（以下え） ウチは日野川のこら辺です。た あーめちやめちや安全ですね。え 築一三〇年位の古民家です。

た そういうところは大丈夫です。こういう古い集落は浸水しないところに立地しています。え 周りの人に聞くとちよっとだけ洪水にあったことあるって：うち、お堀みたいに周りを農用水路に囲まれています。た この辺の田んぼはよく浸水します。でも集落は大丈夫。

ひよ（以下ひ） なんでわかるんですか。

た この辺は、平らなのですが、自然堤防帯（図1a図2a）といって、昔、日野川が暴れて作った土地で、周囲より少し高くなっている場所なんです。川が暴れて土を残して自然に作られた堤防が、周囲より少し高くなってるんですね。昔の人はそれをよく知ってるんです。

平らなところって、川が暴れて山から土砂を運んできて、桶のような形になっている所に堆積して、平らな盆地ができてるんです。ここは昔、山に囲まれた谷ったはずですよ。

え 小谷って地名です、小さい谷。

た 川が暴れて土を残して自然に作られた堤防が、周囲より少し高くなっている

川の土盛り
山に降った雨が川となり
深い谷を刻みながら流れます。
川の水が山を削る侵食作用。
削った土砂を運ぶ運輸作用。
その土砂がたまる堆積作用で
できた土地の形。

b 旧河道

1ヶ月前、川だった
と30.周りより
低くなっている。

a 自然堤防

川の流氷により
土砂がたまり、
周りより高くなった
土地。

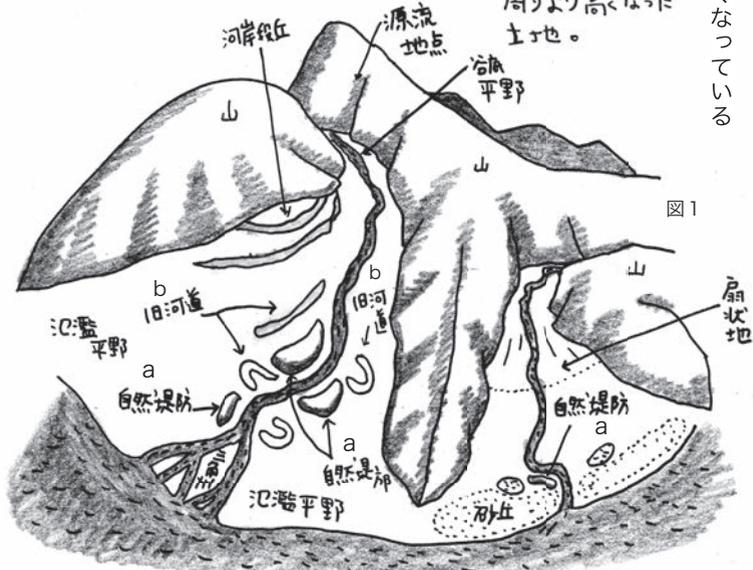


図1.2 出典『山から海へ…川がつくる地形』国土交通省 国土地理院

から、昔の人はそこが安全だということ
をわかってるんです。

自然堤防帯にある旧集落と、
低い土地に建てられた新興住宅



千曲川周辺の治水地形分類図

た 自然堤防帯の上に住むことがどれだけ防災にいいかというのを、今年十月の台風一九号で浸水被害にあった千曲川流域を例にお話しします。

これは治水地形分類図といって、自然堤防帯がどこで旧河道がどこか一目瞭然の地図なんですけれど、これを見ると、千曲川流域に旧河道があちこちにあり、同時に千曲川が暴れて土を残してできた自然堤防帯が点々とあり、その自然堤防帯に集落が固まっております。

この図と実際の雨量が分かる地図と照らし合われます。実際に浸水したエリアは水色で、濃い水色は中でも特に浸水深が深かったところ、そこを見ると…
あまいる（以下あ） 旧河道？（図1c図2b）

た そうです、旧河道。昔、川が流れていたところ。なので低いんです。このうちの一軒に水害のボランティアに行っちゃったんですけど、そこは床上まで浸水していました。で、その辺りを治水地形分類図で見ると、ここに昔、松代城というお城があって、お城の周りに外堀ができています。僕らがボランティアに行った先は、

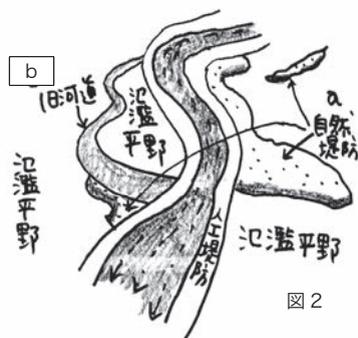
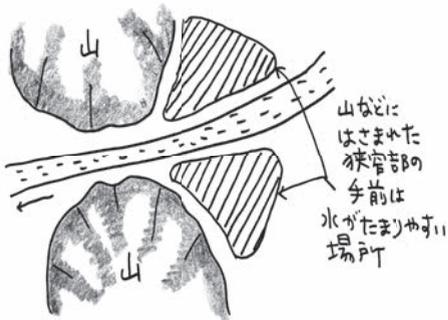


図2

この外堀があったところだったんです。そこに今は家が建ってしまっています。そのすぐ隣に旧集落があります。新興住宅は浸水して、旧集落は全然平気でした。見た目ではほとんど分らない。同じ川の同じ堤防沿いでほとんど同じように建ってるんです。でもちよっと家の高さを高くするだけで、全然変わってたんです。堤防とかの問題じゃないんです。溢れた水は低い所に集まるのがあたりまえなので、被害が大きいかどうかというのは、住み方とか土地利用の仕方なんです。

この特別養護老人ホームです。この狭窄部の水がたまりやすい所に建っていたので、堤防が壊れて、浸水して：こういう浸水しやすいところに新興住宅とか老人ホームとか建ったらみんな怒ってください。でもこの特別養護老人ホームは、幸い職員さんの意識が高くて、早めに三階に避難させていたので被害がなかったんですけど、ただ、周りが浸水する所に立地しているので、自衛隊やレスキュー隊に吊り下げられて避難したんです。体の悪いおじいさんおばあさんが吊り下げられるということの方が命のリスクが高いかもしれないのに。やっぱり低い土地に建物を建てない、危険な所は果樹園や田んぼにしておく、というふうにしないと、いくら居住の自由が憲法で保障されてるからと言ってどこ



に建ててもいいとなると…これから議論が必要なんじゃないかと思えます。

昔の堤防と今の堤防

あ 次、ひよちゃんちを。

ひ はーい。

た あーここは、川と川が合流するところですね。家がどのくらい危ないかは、周りの高さがどれくらい高いか、田んぼよりどれくらい高いかで、大丈夫かどうか決まります。それと、浸水した水がどこまで高くなるかと言うと、堤防の高さまで。なので自分の家が堤防の高さより高いかどうかポイントです。



ひ ここも古い集落なんです。

た 古い集落だったら高さを考えて作っているのが大概大丈夫です。昔は霞堤（かすみでい あまいるだより38号参照）が作られて、堤防が決壊しても人家のある方に水は行かず霞堤が受け止めて被害が小さくなった、ということもあります。ひ 堤防って、たくさん被害がでたら困るような所へ水が流れていかないように、できてるんですよ？

た 昔の堤防はそうなんですけど、今は堤防を作る時は、みんなを平等に守らないといけないんです。日本国憲法で保障されている『居住の自由』と『生命・身体の安全』という基本的な権利です。どこにでも誰もが住んでいい。かつ、同じ安全を国は国民に保障しないといけないので、行政が堤防の整備を同じ高さにしてしまいます。

あ そうなんやー。それは戦後？

た 明治29年に河川法っていう法律ができて連続堤防で国土を守りましたよって

いうのを決めた時から、です。

例えば彦根の芹川。右岸の堤防と左岸の堤防と、形は同じなんですけどスペースが全然違うんです。彦根城側の右岸には、鋼（はがね）と言われる粘土層が入れてあって、左岸の堤防の方を低くしてあったそうなんです。お城側をより守るために。

ひ お城をつくった時に？

た はい、芹川はもともとお城のお堀ですから。井伊さんが作ったんですよ。

今はずんばるといけません。お堀と同じ高さにしてあるんですけど、中身はまだ右岸の方が強いんです。一応、左岸の堤防も国で定められている設計基準は守られています。言うてみれば、こっちがカローラでこっちがボルボ、みたいなもんです。

ひ 堤防決壊って、どこでもあり得るんですか？それともどこか切れやすい所とがあるんですか？

た あります。でもどこが切れやすいかは、分かるようで分からないです。分からなくしていると言っているかもしれないですね。なぜなら、分かったら強くしたらいいですよ。でもそこを強くしたら、次に弱い所が切れますよね。そうすると人為的に他人にリスクを負わせることになりませんか？

ひ ああ、そうか。難しいなー。

た 昔はどこに住むかによって安全度が変わってたけど、今は行政の手が入ると安全の差をなくして、全く同じスペックで堤防を作るんです。そうすると逆にどここの堤防が壊れるか、どこで溢れるかが分からなくなると、ひどい時には避難勧告を数百万人にささなくちゃいけない、そうすると避難所に人が入りきれない…とか問題もあるんですよ。

もう少しヨーロッパみたいに土地利用を制限する権限が国にあったら、ここに住まない地域とかいうゾーニングができるんですけど。ドイツとかスイスとかアメリカとか、ゾーンニングがすごく得意ですよ。日本はね、国が「ここが危ないから」とか「こっちの方が合理的だから」という規制がすごくかかっているんですよ。

一同 なるほど。

た 何をもって平等とするかっていうこともこれから考えていかないといけないと思います。気候変動で大雨が増えると思えるところももっと増えます。その時に溢れさせるところを決めておく、住むところは立場の弱い人も含めて安全なところに住むようにする、そういう棲み分けがいいんじゃないかと僕は思います。水が溢れる所って、実はいい田んぼになるんですよ。そこは農作物を作る所としてみんなで感謝して土地利用していけたらいいと思います。ひよさんちの横のこうい田んぼってほ場整備もされてなくて、多分いい田んぼですよ。

ひ 二年後にほ場整備されるって。

た ああ…

あ ほ場整備がされてないってどうなの？

た ほ場整備するってどういうことかって言うと、水のコントロールが人間のコントロールになるっていうことなんです。じゅくじゅくした田んぼに少し土を入れて高くしてドライな田んぼにするんですよ。で、蛇口ひねると水が出てくる、中干しのときは蛇口をしめたら排水できる、本当にただのお米を作るための工場になるんですよ。でもこういう普段水が溜まりやすい田んぼは、実は冬中ドジョウが生き残れたり、そうするとコウトノリが飛んできたり…「冬水田んぼ」とかは、そういう水田生態系を支える重要な位置付けだったんですけど、田んぼやってるおじいちゃんおばあちゃんにとっては近くの田んぼで機械入れやすくして便利な方がいいよねっていうことにもなる。ほ場整備するっていうことになると思います。

堤防を作ればいいのか

た 千曲川にもどります。千曲川沿いのこの地区は、左側に千曲川が、右側にはその支流が流れています。この地域の人たちは、千曲川から水が溢れてくるのがイヤヤから千曲川の方に堤防を作ってくれて多分言ったんだと思うんです。でね、どうなったかと言うと、降った雨が堤防に塞がれて川に戻らずに、浸水したんですよ。

